

私には夢がある。それは世界中のみんなが日本のようなとてもきれいでおいしい水を飲めるようになるということだ。

私は、学校の総合的な学習の時間や図書館で読んだ本、テレビなどで、世界の環境に興味を持った。この前、自主的に水について調べていると、およそ七億五千万人もしくは安全な水を手に入れることができず、さらに年間約五千万人も子どもが汚い水が原因で命を落としているという記事を見た。私は驚いた。日本に住んでいる私は、毎朝おいしい水を一杯飲んでから一日がスタートし、毎日三食おいしい水からできたご飯を食べ、時にはきれいな雨や雪が降っているという素晴らしい環境で育ってきた。そんな私にとってこの現状は信じられなかった。

しかし、このような現状の中、生きてやろうと、懸命に生活をしている人が地球上に何億人もいると考えると、私はなぜか心がぎゅっと痛くなった。でも私がこうやって幸せに生きているからこそ、世界の環境を学ぶことができる。そして今、こうやって自分の思っていること、考えていることを作文に書くことができる。私の考えていることを作文にまとめることで、自分のやりたいことを明確にし、将来、世界中のみんながおいしい水を飲めるようにしたいという私の願いに一步、近づくことができる。

私がこのような夢をいだいたきっかけには、ある魔法のストローを知ってからだ。それは「Life Straw」。このストローはどんな汚い水でも、飲み水に変えてくれるというもの。発展途上国のプレゼントすれば、水道や浄水場をつくるよりも、もしかしたら手軽にすむかもしれない。でも、どうだろう。確かに手軽かもしれないけれど、何億人にも「Life Straw」を配付するよりも水道や浄水場を造るほうが経費がかからないということがあるかもしれない。

でもこういう場合、私は経費よりもどちらのほうが豊かになるのか、どちらのほうが喜んでもらえるのかということを考えていたので、私の意見としては、水道や浄水場を作るほうがいいのではないかと考えた。でも、「Life Straw」はとてもとても素晴らしいものなので、災害の多い国などは防災バッグに一本入れておくことで、何リットルもの水を運ばないですむことになる。私も「Life Straw」、欲しいな、と思った。

ここまで私は、総理大臣になったつもりで意見を述べてきた。しかし、実現するにはとても難しいことである。でも私はテレビや授業でこのような現状を目のあたりにするたびに日本のようなおいしい水を飲んでほしい、水に困らないで元気に生きてほしいと心の底から思う。この夢は一生願っているだけなのだろうか。実現する日がくるのだろうか。